

第2回公共事業アドバイザー部会での主な意見（アドバイザー会議の進め方に関する事項）

■会議に用いる資料

- ・案件にもよるが、夜景景観に関する検討資料（夜間のパースなど）も加えた方が良い場合もあるのでは記載してはどうか。
- ・目標設定シート①には、用途地域・都市計画区域・容積率等も記載する方が良い。
- ・目標設定シート①のSTEP3には、地域のでき方・成り立ち等も書いてもらえるように注釈を入れる方が良い。
- ・目標設定シート②のチェック項目は、「配慮した」等の言い切りではなく、「配慮する」等の方が良い。また、「該当なし」や「〇〇の為、対応不可」等の項目があった方が良い。
- ・目標設定シート②の各項目は、重要な部分を太文字にしたり、見出しを付けたりするなど分かりやすくした方が良い。

■プロポーザル・コンペ

- ・もしプロポーザルやコンペにおける評価基準に「景観への配慮」の項目を入れるのであれば、評価方法についても記載しないと、参加者にとっては何をどう提案すればよいのかが分からない。関係課と調整する際に、景観面の評価方法についても併せて協議した方が良い。

■市町村との関係

- ・市町村のアドバイザー会議に諮る際、「府としてはこんな風に検討している」というのを示すためにも、目標設定シートは提出した方が良い。
- ・アドバイザー会議を実施している市町村の事業については、市町村に3回アドバイスしてもらいようをお願いするのも有りではないか。

■アドバイザー会議に諮る事業の選定（論点1）

- ・規模は小さいが景観上重要な事業というのは地域の事情に詳しい市町村でないと分からないところもある。景観行政団体である市町村内で行われる事業については、アドバイザー会議に諮る事業を基礎自治体である市町村に聞いてみてもよいのではないか。
- ・大阪府は市町村の情報を把握し、間をつなぐ役割がある。

■アドバイザー会議に諮らない事業への相談対応（論点2）

- ・希望されたものや相談は、なるべく受けた方が良いので実施したらよい。

■工事完了後の評価（論点3）

- ・景観の取り組みは、継続性が大事。担当が変わっても仕組みが継続するように「これだけはやらなくてはならない」というものを確立しなければならない。
- ・目標設定から達成評価まで、一連のシートで管理できるようにしてはどうか。（エクセルのシートで管理する等）。また、各段階、誰が作業するのかを明らかにした方が良い。
- ・達成評価は、自己評価のみで良いのではないか。自己評価があまりにもおかしいものにはアドバイザーがコメントをする、くらいで良いように思う。